

「立派」の意味分析

梶原 彩子

キーワード 「立派」 意味分析 多義語 多義構造 カテゴリー化

1. はじめに

「立派」は例文(1)(2)のように、対象であるモノや人間を賞賛する際に用いられる形容動詞である。しかし例文(3)のように、使い方によっては褒めにも皮肉になりうる。例文(4)では、困難なことを成し遂げることや大きな業績を残すことを「立派」、そして特有のオーラを放つことや眉目秀麗であることといった人間の外見に表れていることにも「立派」が使われている。また、例文(5)のように、仕事とは捉えにくい「掃除」を取り上げて、これも仕事であるというような使い方もできる。これらは関連語も異なり、同じ意味とは考えにくく、「立派」は複数の意味を持つと考えられる。

- (1) 「溪谷を見おろせるこの場所に水明楼という料亭がありました。(中略)太い柱のある立派な建物でしたよ」(朝日新聞 2011/01/13)
- (2) 毎週掲載の「おやじのせなか」(教育面)が好きです。頭が良く人格者で、困った時には助言してくれたり、人生で大切なことを話してくれたりする立派なお父さんばかりです。(朝日新聞 2008/08/11)
- (3) 外国人は自分の家族の写真を人に見せるのが好きで(中略)「父はここ」と言うとき「立派なお父さんですね！おなかも立派ですね」。ただの食べ過ぎで出っ張っている腹のどかが立派だか分からない！(中略)日本人の褒め方と皮肉が僕にはいまひとつ理解できなかった。(中日新聞 1992/01/19)
- (4) 3氏の目には、共通する光がみなぎっていた。「立派な顔の政治家が立派な仕事をするわけじゃない。立派な仕事をした政治家が立派な顔に変わるのです」思わずひざを打った。眉目秀麗な政治家なら大きな業績を残せるなどと有権者はだれも思っていない。(朝日新聞 2012/9/30)

(5) 掃除だって立派な仕事。(YAHOO!知恵袋 2012/7/7 22:05:34)

本稿では「立派」の多義語分析を行い、複数の意味の関係とその動機づけについて検討し、「立派」の持つ多義構造を明らかにする。

2. 「立派」の意味記述に関する先行研究とその検討

2.1 『大辞林』(第三版)

『大辞林』では以下のように記述されているが、この記述の問題点として、3つが挙げられる。

りっ ぱ【立派】(形動)[文]ナリ〔派を立てるの意。また、「立破」の転かとも〕① 非常に素晴らしいさま。非常にすぐれているさま。「一な業績」「一な品物」② 堂々としているさま。「一な態度」「海に臨んで一なる西洋風の層楼あり/花間鶯鉄腸」③ 非難する点のないさま。十分であるさま。「もう一な大人だ」「一にやっつてのける」[派生] 一さ(名)

問題点①:「コロンブスはアメリカ大陸を立派に発見した」とは言いにくいように、「素晴らしい」「優れている」と判断される対象には、何らかの制限があるが、それが記述に反映されていない。

問題点②:「非常に優れているさま」「堂々としているさま」「非難する点のないさま」というプラス評価の記述がなされているが、「立派な大根足」「立派な二の腕」「立派な負け」など、好ましくない状態にも「立派」は使われており、これらの例は『大辞林』の意味記述では説明できない。

問題点③:「水虫も立派な病気だ」「万引きは立派な犯罪行為だ」「掃除も立派な仕事だ」のような装定用法でのみ用いられる「立派」の意味が記述されていない。

2.2 飛田・浅田(1991)『現代形容詞用法辞典』(頁:596)

『現代形容詞用法辞典』では、「立派」の意味について「大きさや威厳が必要」「非常に優れている様子」「客観的なニュアンス」「対象についての感動は暗示しない」という説明をし、多数の例文に基づき、より詳細な意味の記述を試みている。しかし、次のような問題点がある。

問題点①：「客観的なニュアンス」とあるが、例文(6)のような例から客観的なニュアンスという記述では片づけられないことがわかる。

問題点②：感嘆や感動を暗示しないとあるが、例文(7)のような反例があり検討する必要がある。

問題点③：対象の大きさや威厳に言及し、小さなものにはあまり用いられないとの記述がある。しかし「立派なカブトムシ」や「立派なネズミ」等の実例が存在し、対象の「大きさ」についても検討の余地がある。

- (6) 《多くの若者が志願して戦地に行った過去についてどう思うか》の問いには、「国のために自分を捨てるなんて立派な行いだ」(二十二歳、男性)から「そんなことはばかばかしい」(十九歳、男性)まで多様なとらえ方があった。(朝日新聞 1994/08/29)

- (7) 安重根の書を写真で見たととき、「なんて立派な書を書く人だ。書が立派なら、書いた人も立派に違いない」と思ったという。(朝日新聞 1999/03/09)

例文(6)では「国のために志願して若者が戦地に行き死んだ」ということが「非常に優れている行い」に当たる。例文(6)では、「国のために戦地に行く」という行為を、22歳の男性は「立派」と評価し、19歳の男性は「ばかばかしい」と述べており、人によって評価基準が様々であることが読み取れる。このことから、形容詞の意味記述として「客観的」という説明が妥当であるか疑問に思われる。また、例文(7)は「なんて～」と感嘆していることから、「対象についての感動などは原則として暗示しない」という記述の反例となる。

2.3 森田(1989)『基礎日本語辞典』(頁: 1217-1221)

『基礎日本語辞典』では、「立派」が評価できる対象について、具体例をあげながら、ものの外観と人間の関係性に注目し、分析を行っている。その上で、「立派」の意味を「標準的なレベルから見て外観や内容が際立って優れている状態にあるさま」と記述し、質的な価値観に根差した判断であると結論付けている。人間にとって価値があるかどうかという視点や外観から捉えるという視点は重要であるが、次のような問題点が挙げられる。

問題点①：人間の内的精神を表せないとの記述があるが、「立派な嘘」「立派な罪」と言うことができ、また、例文(8)(9)のように「感覚」や「気分」といった語にも「立派」は用いられる。

問題点②：肩書き・職業・家柄といったものに「立派」が使えると記述し、用例として「廃品回収だって立派な仕事」をあげている。しかし、「?廃品回収という仕事は立派だ」のように、述定用法にすると表す内容が変わることが説明されていない。

問題点③：「標準的レベルに対して価値的に優れている状態」と記述しているが、「立派な学歴」と「立派な腫瘍」では、価値的に優れているとして同列に扱えない。「標準的レベル」と「価値的に優れている」という記述には、分析の余地がある。

- (8) 弟は環境問題や教育問題で私より立派な感覚を持っている。最初から「友愛」精神を掲げて、無所属で選挙に立候補した (朝日新聞 1996/08/27)
- (9) 第3楽章については、もう少し「フィガロ」的な軽妙さのある方が良いでしょう。逆になんとも言いますが、逆に言うと、演奏会のトリに相応しい立派な気分が出ていたとも言えます。 (<http://www.oekfan.com/review/2005/0706.htm>)

例文(8)では兄である自分よりも「鋭い感覚」、例文(9)では「重厚な気分」を意味しており、「立派な人」や「立派な作品」と同列に「価値的に優れている状態である」とは言い難い。人間の内的精神を「立派」が表せる時は、「対象が標準的レベルに対して価値的に優れている状態にあると認定できた場合である」という説明も補足されているが、その標準的レベルがどのようなものかについては言及されていない。標準的なレベルや価値的に優れた状態とはどのようなものかには、検討の余地が残されている。

以上、3つの先行研究における「立派」の意味記述とその問題点について概観した。これらの問題点に加えて、「立派」は多義語であるにも関わらず、意味間の関係やその動機づけが明らかにされていない点、そして「立派」は形容詞である以上、比較対象と比較基準が存在するはずであるが、その記述が明確ではない点を先行研究における共通の問題点として挙げる。

多義語分析を通して、先行研究の問題点の解明も含め、より精緻に「立派」の意味を記述すること、また「立派」の複数の意味間の関係とその動機づけについても検討、記述することを本稿の目的とする。

3. 多義語分析

3. 1 多義的別義(1): <話題の具体物の大きさと><大きさから推測できる中身の良さが><話者が同カテゴリーの成員に期待する基準を><上回っている¹><判断できるさま>

a. 人工物

例文(10)では東大寺、例文(11)では広小路をそれぞれ「立派」と表現している。

(10)韓国の金泳三・元大統領が(中略)東大寺のような大きくて立派なお寺は韓国でもなかなか見られない」と感嘆した様子で話した。(朝日新聞 2008/06/19)

(11)広小路は、今治港から市役所まで約600メートルの直線が続き市役所前交差点で屈曲、さらにJR今治駅まで約500メートル続く。(中略)「並木のきれいな広くて立派な道」などと評価される(朝日新聞 2011/10/28)

例文(10)(11)では、対象をまず視覚的に捉え、話者の今までの経験から作られた「普通の対象」と比較している。それよりも、現在知覚している対象の「大きさ」や「広さ」が上回っていることが「立派」と表現されている。ここでプラス評価されている「大きさ」や「広さ」といったものは、直接視覚的に捉えられるものである。

これらの例文では、「大きくて立派」「広くて立派」の順番で用いられているが、これらを例(12)のように操作して順番を入れ替えると、容認度が落ちる。したがって、「立派」と言うときには、「大きさ」「広さ」といった要素が判断の根拠となっていると考えられる²。

(12)この学校は大きくて、立派だ。 ⇒ ?この学校は立派で、大きい。
この学校は広くて、立派だ。 ⇒ ?この学校は立派で、広い。

「大きいこと」「広いこと」は肯定的に捉えられ、「立派」の評価性もプラスである。次の例文(13)では、視覚的に直接捉えることのできない、対象の中身に焦点があたり、材料の質が良く強度があり、家族を守れる家を「立派な家」と表現している。

- (13)夏・冬通して快適な「地熱活用住宅」と木と塗り壁で造る体に優しい家、
(中略)「私たちの子供や孫が、健康で幸せに暮らせるように丈夫で立派な家を造ってほしい」との、(<http://ism.blog-page.jp/20111123.html>)

b. 自然物

「立派」が自然物について用いられている例を検討する。例文(14)では、若い木ではなく、年月のたった太くて丈夫な木を、例文(15)では、幹の周りが5メートル以上と太く、どっしりとした古い木を指して「立派」と言っている。

- (14)立派な木に育つまでは最低50年。名木になるには200～300年かかる。「若い木を切ってすぐに利益にするより、次世代にわたって良い木を育てることを大切にしている」。(中略) 節ができないように枝打ちし、太くて丈夫な木にするため等間隔に間伐していく。(朝日新聞 2008/05/24)
- (15)境内の樹木も立派なものが多い。樹齢350年のアカマツ(東昌寺)、樹齢250年のヒョクヒバ(覚範寺)などが市の保存樹木に指定されている。(中略) 高さ17.5メートル、幹の周りが5メートル以上もあり、どっしりとしている。(朝日新聞 2004/11/06)

例文中の「太くて丈夫」「どっしりと」という表現からも、対象にはある程度の密度と強度があり、物理的にも重い木であることが窺える。ある程度の強度があるということは、外側が非常に硬いか、密度が高く、外力に対する抵抗力が大きい状態である。また、物理的に重いということは、対象の中身がしっかりと満たされている状態であると考えられる。

次の例文(16)～(18)では、人間が口にできるものに「立派」が使われている。

- (16a)?? (このみかんは) 立派だが、まずい。
(16b) (このみかんは) 見かけは立派だが、まずい。

対象を「立派」と表現する際、話者が対象の大きさから、対象の中身の味までを同時評価していることは、例(16a)の容認度が下がることから分かる。容認度を上げるためには、例文(16b)のように、「見かけは」をつけて、対象の見かけのみの評価に限定していることを示さなければならない。

- (17)立派な瀬戸ジャイアンツ はちきれんばかりに膨れた果実 どこか高級

車のエンブレムに似ています。非常に大粒で皮が薄く、種もない...

(http://www.umai-mon.com/user/scripts/p_attribute.php?attribute_id=315)

(18)美味しそう。ホント身が詰まって重そうですね。立派な毛蟹です。

(<http://blogs.yahoo.co.jp/kanappe0407/56614305.html>)

例文(17)(18)の例からも、私たちが「対象の外側が良いものは中身も良い」「対象の中身が良いものは外側も良い」というものの見方をしており、中身の良さを外から推し測っていることがわかる。

例文(17)では、瀬戸ジャイアンツというマスカットの品種を「立派」と表現している。この品種は文中で説明されているように、果実の皮が薄い品種であり、その果実がはちきれんばかりに膨れている様子という表現から、葡萄の粒の中身が充実していることをプラス評価していることが分かる。また、文中に「食べておいしい」とあることから、(薄い皮が)はちきれんばかりの大粒であることが、「おいしさ」に繋がると話者が判断していることが読み取れる。旨味自体は味覚であり、視覚的に捉えることはできない。しかし、「外見がいいものは中身もいい」「中身のよさは外見に表れる」という前提に基づいて、外見を通して中身の美味しさを判断することは可能であることをこの例は示している。同様に、例文(18)でも「毛蟹の身が詰まっており、重そうな外見をしていること」が話者に中身の旨味を想起させており、例文(17)(18)は、話者が対象の外から、中の味までを同時に評価する例である。

また、話者が実際に口に入れて味わいながら、「立派なマスカット・毛蟹だ」とは言いにくいことから、この別義(1)では単に「中身の味の良さ」ではなく、美味しそうに見える外見の大きさ、「外側から推測できる中身の良さ」をプラス評価していると判断した。

c.人間

続いて、「立派」が人間に使われている例を検討する。以下の例文では、対象を直接見ていることから、視覚的に捉えられる外見から、何らかの判断を下していることがわかる。

(19)おばあちゃんは、いっちゃんを見て。「2ヶ月？ほー立派な赤ちゃん！！」
と太鼓判。 ついでに、体重も量ってくれました。服を脱がせて、裸になっ
たいっちゃんを見て。「ぷりぷりして立派！！」と再び太鼓判。

(<http://ameblo.jp/monkosan/day-20120210.html>)

例文(19)で、話者は2か月の赤ちゃんを「ぶりぶりしていて」と言っており、物理的に重そうな外見を「立派」と表現していると考えられる。例文(20)でも、野球選手の野茂を「大木がドーンと立っている感じ」だと表現し、重厚感のある彼の体格を「立派」と表現している。

(20)野茂が現れた。立派な体格だ。まるで目の前に大木がドーンと立っている感じ。スゲー～なあ、と私が見とれていると (朝日新聞 2008/07/28)

例文(19)(20)では、どちらも対象の物理的重さをプラス評価しているが、これは人間が物理的に重いということが健康に繋がり、健康そうに見える外見を持つことは人間にとって好ましいと捉えられるから³である。ここまで見たように、「立派」の別義(1)では、基本的に「大きいこと」や「重いこと」が肯定的に捉えられている⁴。

3. 2 多義的別義(2): <話題の人工物の価値が><同カテゴリーの成員に期待する基準を><上回っていることが><外見に表れていると><判断できるさま>

別義(2)は別義(1)とは異なり、「大きい」で言い換えることができない。

(21)そのとき父が買ってくれたのが、「草色」の革のランドセルでした。一方、幼なじみのTちゃんは大きな花柄模様が刻まれた立派な茶色のランドセルだったのを覚えています。(朝日新聞 2012/01/26)

(22)お土産は皮の手袋でした。縫製のしっかりとした立派な品で、私はずいぶんと恐縮したのですが、イタリアでは良質の革製品が安価で手に入るのだそうです。(http://www.italytravelsouvenirs.com/33qmu4/)

例文(21)のランドセルはモノによって大きさが異なるわけではなく、たいいてい同じような大きさである。この文脈では「大きな花柄模様が刻まれている」デザインを肯定的に捉えて「立派」と表現している。例文(22)でも、話者は、手袋の大きさを問題としているのではなく、縫製の良さや材料の皮の質の良さを評価している。対象の大きさが価値と結び付かないものが、別義(2)である。

この別義に分類される対象が属するカテゴリーのメンバーのサイズはたいいてい同じであり、大きい方の値段が高いということはない。カテゴリーのメンバーの大きさが同じことが前提としてある場合、価値が付与されるのは、対象のデ

ザインや品質である。

例文(21)では模様がランドセルの、例文(22)では材料の質や縫製が手袋の価値を決めている。対象が人工物に限られるのは、自然界に存在するものはたいいてい「大きいこと」に価値が認められるためである。食べ物にしても、大きい方が生命活動を維持するのに役に立ち、木も大きい方が役に立つ。しかし、人工物の場合には「ダイヤがちりばめられた立派な指輪」というように、小さくても人間の手で価値を付与することができるため、「大きさ」よりもデザインの良さや美しさが重要視される。

3. 3 多義的別義(3): <話題の人物の精神状態が><強く安定した様子が><話者が期待する基準を><上回っていると><判断できるさま>

以下の例文(23)(24)では、対象の人物の一時的な状態である態度について「立派」だと言っている。

(23)「初当選のころから、ずっと変わらないことが一番の魅力ですよ。頑固だの青臭いだのと言われてますけど、これだけ変わらない意思や態度は立派です」(週刊アエラ 2004/06/14)

(24)付添人弁護士は(中略)偽計業務妨害とされた非行事実を争う方針だった。でも君は「世間を騒がせたことも含め全責任は自分にある」と考えた。非行事実を認めると言う君に、付添人が折れた。それは一つの立派な態度だと、僕は思う。(朝日新聞 2011/07/08)

特に例文(23)では、2通りの捉え方があり、マイナス評価なら「頑固・青臭い」とも言え、プラス評価ならば「立派」と、同じ「ずっと変わらない意志や態度」という事柄に対して、捉え方によって2通りに表現できることが示されている。同じ「ずっと変わらないこと」に対して、「頑固」「青臭い」と捉えることもできるが、話者にとってはそれが「立派」と捉えられる、と自身の対象に対する「肯定的な見方⁵」を示しているのである。

また例文(24)では、青年の罪を認めようとする「一貫した」態度が付き添い人の考えを変えさせたと述べ、そのような態度を「立派」だと表現している。続いて、以下の例文(25)(26)で、「立派」だと表現されるのは、人物全体である。

(25)村木厚子さんは、(中略)屈さずに無実を主張しました。女性として、というより人間としてとても立派だったと思います。(朝日新聞 2012/01/24)

- (26)「わかります。でもやっぱり気持ちは変わりません」二人だけで35分間。
校長は「出てくれんか」と言いそうになるのを何回ものみ込んだ。骨の
ある立派な子だと思った。(朝日新聞 2003/01/05)

例文(25)では、厳しい状況の中でも検察に屈さず無実を主張し続ける女性を「立派だった」と表現しており、例文(26)でも気持ちが変わらない人間を骨のある「立派な子」と肯定的に捉えている。ここでは、意志が強いとか簡単には屈さないという精神的に強い人間について、「立派」が使われている。

以下の例文(27)では、対象の人物の精神状態の強度に関する言語表現はない。文中では薬物から立ち直り、仲間のために何かやりたいという息子が「立派」と表現されている。薬物からの更生には強い意志が必要であり、非常に困難なことであるということ私たちは一般知識として持っている。したがって、精神状態の強さが言語化されていなくても、「立派」の意味が理解されるのである。

- (27)小2のとき、家族のように接していた知り合いが目の前で事故死したことを息子が抱え込んでいたことも知った。「薬物に手を出したことを理解できない人もいる。でも、いまは仲間のために何かやりたいという息子を、純粋に立派だなあと思う」(朝日新聞 2012/02/08)

別義(3)の「立派」が人間の精神状態の柔軟性や可変性を評価しないことは例文(28ab)からわかる。考え方が柔軟なことに対して「立派」は使いにくい。しかし、例文(29)(30)のように「精神的な強さ」に注目させる文脈があれば、「可変性」「柔軟性」を含んだ人間の精神状態にも「立派」を使うことができる。

- (28a)??新しい意見もどんどん取り入れて…、田中さんって、柔軟で立派だね。
(28b)??臨機応変で、立派な人ですね。

- (29)身内の不幸があっただけなのに、気持ちを切り替えていて立派だね。

- (30)あれだけダメ出しくらったのに、すぐに新しい企画を準備して、軌道修正する姿は立派だ。

3. 4 多義的別義(4): <カテゴリーの理想例に対する><社会的評価が><安定していて良いと><判断されるさま>

あるカテゴリーの中の理想例に対して、「立派」が使われるのが別義(4)である。例文(31)(32)では、対象の事柄が世間の人々から模範的なものとして認められていることを「立派」と表現している。

(31)シン氏は「米有名大学イエール大の西洋美術史の博士号」という学歴を武器に、ソウルの東国大学の助教授職についていた。だが、その立派な学歴が実は大ウソだったと、大学側が発表したのだ。(週刊アエラ 2007/10/08)

(32)高齢の父に突然、高い金利の社債購入を勧める電話がありました。その後、会社の事業概要や社債の金利状況、海外での寄付活動などの記事が掲載された新聞が自宅に届けられ、社会的に貢献している立派な会社だと思うようになりました。(朝日新聞 2009/07/02)

例文(31)は米国の名門イエール大学の博士号を持っていること、例文(32)は、社債の金利状況が良いことや海外での寄付活動等を行っていることを「立派」と表現している。

学歴といっても様々な学歴が存在する。しかし、その中でも、社会の中で安定して良い評価を受けるカテゴリーの理想例「イエール大学の博士という学歴」に対して「立派」が使われている。また、「会社」カテゴリーにはいろいろな会社が存在する。経営状態が悪い会社、社会的に貢献することを理念としない会社もカテゴリー内に存在する。しかし、その中でも経営状態がよく、社会的に貢献している会社というカテゴリーの理想例を指して「立派」だと言っている。

3. 5 多義的別義(5):<カテゴリーの周辺例と認識される><話題の対象が><カテゴリーのメンバーであると><判断できるさま>

以下の例文(33)～(37)では、「正真正銘」というような意味で「立派」が使われている。話者によっては、カテゴリーの周辺例と見なされてしまう対象が、実際にはカテゴリーのメンバーであると主張されている。

(33)北浦隊長は「金剛山は標高は低いが、立派な冬山。十分な準備をしてきてほしい」と話している。(朝日新聞 2001/01/14)

(34)確かに大人から見ればらくがきに見えても、子供は一所懸命に太真面目にお絵かきをしているつもりなんですよね。どんなにそれらしく見えな

くても立派な絵ですから、子供の気持ちを尊重してやらないといけない
(http://blog.goo.ne.jp/1929hiroko_hmk/e/e7a0dd0dbdf17bdae192a5cf091c6cd9)

例文(33)では、金剛山は準備をしないまま登っても大丈夫だろうと認識されがちな標高の山であることが話されている。しかし、その金剛山も紛れもない冬山なのだと述べながら、救助隊長が人々に注意を呼び掛けている。例文(34)では、子供の書いたものがそれらしく見えなくても正真正銘の絵であると強調して「立派な絵」と言っている。

別義(5)では、話者の中にある対象のイメージ像から、現在話者が知覚している対象がかけ離れていることを問題としている。かけ離れていても、同じカテゴリーのメンバーであることを強調するのが、この別義(5)である⁷。「話者の中にある対象のイメージ像」から遠いことを別義(5)は強調するため、次のように、無意識的に、社会の中で人々に持たれている意識を浮彫にする効果もある。

(35)「いじめで命がなくなれば立派な殺人罪。見て見ぬふりをしている人も立派な犯罪です。(朝日新聞 2006/11/22)

(36)男女平等とは女性が、男性と同様に生き方を選ぶ権利を持つことなのですよ。あなたが言う通り、子育ては立派な仕事だと思います。子供を育てることに“女の誇り”を持つ人はたくさんいるし、いるべきです。(朝日新聞 1989/11/12)

(37)「精神病患者は不幸にして病におかされていても人格をもった立派な人間である。(朝日新聞 1994/06/28)

例文(35)～(37)では、私たちの社会において、対象がカテゴリーの理想例から遠いこと、「中心メンバーではない存在」として扱われていることが強調されている。例文(35)では、いじめで人が死ねば殺人罪、またそれを見て見ぬふりをすることも正真正銘、犯罪であるという意味で「立派な」と言っている。例文(36)では、給料はもらえなくても、子育ても正真正銘「仕事」であり、例文(37)では、精神病患者も正真正銘「人間」なのだと述べられている。

ここで浮彫にされているのは、私たちは「犯罪」「仕事」「人間」といった、あるカテゴリーの中心には理想例が存在し、話題の対象は「カテゴリーの一人員と同等に扱われにくい」周辺例であるということである。よって、例文(37)のように、話者の根底にある差別的な意識を浮彫にする表現効果も持ちうると考

えられる⁸。

4. まとめ

4.1 多義的別義の認定

「立派」の別義を再掲する。

多義的別義(1): <話題の具体物の大きさ¹><大きさから推測できる中身の良さが>
<話者が同カテゴリーの成員に期待する基準を><上回っていると>
<判断できるさま>

多義的別義(2): <話題の人工物の価値が><同カテゴリーの成員に期待する基準を>
<上回っていることが><外見に表れていると><判断できるさま>

多義的別義(3): <話題の人物の精神状態が><強く安定した様子が>
<話者が期待する基準を><上回っていると><判断できるさま>

多義的別義(4): <カテゴリーの理想例に対する><社会的評価が>
<安定していて良いと><判断されるさま>

多義的別義(5): <カテゴリーの周辺例と認識される><話題の対象が>
<カテゴリーのメンバーであると><判断できるさま>

これらの別義は類義語及び反義語が異なる点、また評価性が異なる点、文法的な振る舞い方が異なる点の3点からその意味の違いが認められる。以下、の例文は別義(1)~(5)に対応する。また、それぞれの文脈における関連語を「立派」の後の[]に、反義語を文末の[]に示し、関連語の異なりを示す。

- ・美味しそう。ホント身が詰まって重そうですね。立派な[大きい]毛蟹です。
(= (18)) [⇔小さい]
- ・大きな花柄模様が刻まれた立派な[素敵な]茶色のランドセルだった(= (21))
[⇔変な]
- ・村木厚子さんは、(中略)女性として、というより人間としてとても立派だっ
た[すばらしかった]と思います。(= (25)) [⇔卑屈な]
- ・「米有名大学イエール大の西洋美術史の博士号」という学歴を武器に、(中略)だが、その立派な[良い]学歴が実は大ウソだった(= (31)) [⇔微妙な]
- ・北浦隊長は「金剛山は標高は低いが、立派な[正真正銘の]冬山。十分な準備をしてきてほしい」と話している。(= (33)) [⇔一応]

別義(1)の例文「立派な毛蟹です」を「毛蟹が立派です」と言い換えても、述定用法と装定用法どちらも問題なく使うことができる。また、別義(2)でも、「立派な茶色のランドセル」を「茶色のランドセルが立派だった」、別義(3)でも、「立派だった」を「立派な村木厚子さん」と言い換え可能であり、別義(1)～(3)では文法的制約が特に感じられない。同様に、別義(4)でも、「立派な業績」を「業績が立派だ」と言い換え可能であり文法的制約は特に感じられないが、この別義(4)では、述定用法よりも装定用法の方が収まりが良い。この点は、別義(4)の<判断されるさま>という意味記述に反映させた。

別義(1)～(3)及び(5)はすべて判断する主体が話者であるが、別義(4)では世間一般の人々である。つまり、対象が世間からどのような評価を受けているかが問題となる。社会的な評価が安定していれば、私たちはその判断自体を「対象の属性」として捉えるようになる。別義(4)に装定用法が多いことは、世間で良い評価を安定して得ているという意味が影響を与えているのだと思われる。

別義(5)では、「立派な冬山」を「冬山が立派だ」と述定用法にすると意味が別義(1)に変わってしまう。別義(5)においては装定用法のみ可能である。別義(5)の文法的な制約が強いことから、別義(5)と別義(1)～(4)は性質が異なると思われる。

4. 2 プロトタイプの意味

本稿では、文法的な振る舞いに制約がなく、母語話者に最も想起されやすいという点、文脈の支えなく「すごい！立派！」のような感情表出用法が可能である点から、暫定的に別義(1)をプロトタイプの意味として考える。

4. 3 別義間の関係⁹

別義(1)では、「大きさ」が焦点化されている。別義(1)(2)では、「外側から下される評価と実際の中身の価値は一致する」という私たちの日常的な経験が基盤となっている。別義(1)では、「大きい物は中身も良い」という推論が働いており、対象の大きさが焦点化されているが、その中身を全く評価していないわけではない。別義(1)の「大きさ」が持つ評価性は基本的にはプラス¹⁰である。

別義(2)では、視点が対象全体に移り、対象全体の価値が焦点化されている。ここでは、「大きい物は中身も良い」ではなく「外側と中身が良ければ、全体の価値が高い」という推論が働いていると考えられ、この推論が別義(2)を生んでいる。この推論関係は、共起関係に基づくメトニミーによる。

別義(3)では別義(2)と同じく視点が対象全体に移っているが、別義(1)(2)では、対象が具体物であるのに対して、別義(3)の対象は、人間の精神状態という抽象

的な身体空間であり、物理的な具体物から抽象物へと広がっている。別義(4)では、対象がさらに抽象化しており、「事柄の社会的評価」が簡単には変容しにくく安定感も増すことを表している。別義(5)では、私たちの社会においてカテゴリーの成員として見なされにくいという対象の性質が焦点化されている。社会的な評価が安定していることが別義(4)であるが、反対に、社会的な評価が安定していないことが別義(5)である。

「立派」の意味は、別義(1)では「ものの大きさ」、別義(2)では「ものの価値」、別義(3)では「人間の精神」、別義(4)では「社会的評価」、別義(5)では「話者の認識」と抽象領域へと拡張しており、さまざまな概念領域間のメタファー的転移が認められる。

5. おわりに

最後に、2節で指摘した『大辞林』『形容詞用法辞典』『基礎日本語辞典』の問題点に対し、本稿の分析が明らかにしたことを以下にまとめる。

本稿では、「立派」がどのような対象に対して使われるのか、別義(1)から(4)の意味記述に対象を記述した。また、別義(1)では対象の大きさ、別義(2)では人工物の価値、別義(3)では人間の精神状態そして別義(4)では社会的評価と、それぞれ何が好ましく捉えられるかを別義ごとに整理した。最後に、先行研究では取り上げられていなかった別義(5)の意味を記述した。

さらに、好ましくない状態にも「立派」が使われている例を取り上げ、「基準を上回ること」が社会的にどう捉えられているかによって評価性が変わることについて、実例に基づいて説明した。

注

- 1 ものの価値には「人間が求めるモノとしてのあり方」が反映されている。人間の求める条件を満たせば満たすほど、モノとしての価値は上がる。例えば、普通、「建物」とは大きさ・丈夫さ・広さ・高さ・外観の美しさが上がれば建物としての価値が高くなる。しかし、「作品」とはただ美しいだけで価値があるのではなく、人々を感動させたり、考えさせたりするという「人の心を動かす」という働きかけがあるものに価値がつく。また、大人用の手袋などはどれもたいてい同じような大きさであり、素材・デザイン・色によって価値が決まる。よって、モノによって価値を決める要素は異なると言える。

- 2 これは、「立派」に限ったことではない。同じように、「この子は賢くて、良い」は言えるが、「?この子は良くて、賢い」と、順序を変えると容認度が下がる。これは、「賢い」が判断の根拠となって「良い」と判断されるためである。同様の理由から、「彼は歴史に名を残して、すごい」と「?彼はすごくて、歴史に名を残している」、「この本は分厚くて、難しそうだ」と「?この本は難しそうで、分厚い」には容認度に差がある。
- 3 しかし、次のような例外も存在する。例えば、普通の日本社会では女性に対しては、大きいことや重いことが否定的に捉えられる。そのため、次の例文では、女性が「丈夫で立派な足」を否定的に捉えている様子が読み取れ、物理的重さが現れる外見が否定的に捉えられている。
- 例)「年をとってから足が丈夫だと助かる」と母にすりこまれていました。(中略)小学校の頃にも一人の男子に「大根足」と呼ばれていました。働いている時も上司にしみじみ「立派な足だなあ」と感心されたりしました。
(<http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2011/1205/466032.htm?o=2>)
- 4 注3と同じように、「立派な癌」や「立派な腫瘍」といった病気の類は、そもそも人間にとって好ましくないものであるため、「大きさ」が基準を上回ることが否定的に捉えられた結果、文全体の評価性はマイナスになる。
- 例1) 八十歳くらいの高齢で死亡した人を解剖したら、その五十パーセント余りに大きい立派な癌がみられた(中日新聞2001/11/16)
- 例2)「下垂体にある立派な腫瘍」が「内出血を起こしている可能性が高い」とのことです。(http://ameblo.jp/haru-kirakira-aya/entry-11369253983.html)
- しかし、別義(1)では「大きさと大きさから判断できる中身の良さが、基準を上回っていること」が問題となるように、「大きさ」が問題とならない病気には、「立派な喘息」「立派な骨折」と言いにくい。(但し別義(5)の解釈は可能)
- 5 例外もある。次のような例では、本来プラス評価を表す「立派」の持つ意味である「変わらないこと」が話者にとって好ましくないために、皮肉に聞こえる。「皮肉」とは、「本来はプラス評価を表す言語表現を用いて、実際には、マイナス評価の意味を伝える(靱山(2009:95))」ものである。
- 例) 姑から「(中略)あれからあなた自身に気持ちの変化はある?」と聞かれ「別に...お義母さんがそう思っているんだから、変わりません」って言ったんです。そうしたら姑が「どういう考え方をしたらそういうことが言えるのか、そんな態度が取れるのか理解できないわ(中略)...ほんとあなたに対しては、ご立派ね」としか言いようがないわね」と言われたんです。
(<http://oshiete1.watch.impress.co.jp/qa/7302442.html>)

- 6 理想例とは、カテゴリーを構成する複数のメンバーの中で、最も理想的であると認められるメンバーである。子供が「大きくなったらプロ野球選手になりたい」と言った場合には、1軍の試合に出場する機会に恵まれないような選手ではなく、イチローのような理想的あるいは代表的なプロ野球選手を頭に描いていることが多い。また、理想例が言語にも反映している例として、「明日、天気になるといいね」の「天気」がある。天気というカテゴリーには、「晴れ」「曇り」「雨」などのメンバーが含まれるが、その中で通常最も望ましい(=理想的な)のは、「晴れ」である。(舩山2010: 22-23)
- 7 今井(2008)は、「立派な」「完全な」「いい」をあげて、日本語におけるカテゴリー帰属に関わる表現だとし、これらはカテゴリーへの帰属度を高める機能を持っていると説明している。
- 8 例(37)のような差別的な例は、2000年代に入ってからは見られなくなっている。
- 9 「立派」の意味拡張は、認知言語学における「容器のイメージ・スキーマ」を介した拡張だと考えられる。物理的な空間において、容器の中身が満たされると物理的な重量も重くなり、外からの圧力への抵抗力が増し、容器自体の強度があがる。また、物理的に重くなれば、簡単には動きにくく、安定感も増す。特に、別義(3)は、物理的空間を人間の精神状態に写像して、人間の精神が強く安定していることを理解していると考えられる。
- 10 <<大きいものは良い>>という概念メタファーの影響が考えられる。

主要参考文献

- 今井忍(2008)「日本語カテゴリー帰属表現について」児玉一宏(編)『言葉と認知のメカニズム—山梨正明教授還暦記念論文集』, 499-513 ひつじ書房
- 國廣哲彌(1982)『意味論の方法』大修館書店
- 國廣哲彌(1997)『理想の国語辞典』大修館書店
- 辻幸夫(編)(2002)『認知言語学キーワード事典』研究社
- 鍋島弘治朗(2011)『日本語のメタファー』くろしお出版
- 舩山洋介(1993)「多義語分析の方法—多義的別義の認定をめぐる—」『名古屋大学日本語・日本文化論集』(1) 名古屋大学留学生センター, 35-57
- 舩山洋介(1994)「形容詞『カタイ』の多義構造」『名古屋大学日本語・日本文化論集』(2) 名古屋大学留学生センター, 65-90
- 舩山洋介(2009)『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』研究社
- 舩山洋介(2010)『認知言語学入門』研究社

辞典類

『広辞苑』(第六版) 岩波書店

『大辞林』(第三版) 三省堂

『大辞泉』(第二版) 小学館

『使い方の分かる類語例解辞典』(2003)小学館辞典編集部

『日本国語大辞典』(第二版) 小学館

大野晋 浜西正人『類語国語辞典』(1985)角川書店

グループジャマシイ著『日本語文型辞典』(1998)くろしお出版

国立国語研究所(編)(2004)『分類語彙表 増補改訂版』大日本図書

柴田武 山田進『類語辞典』(2002)講談社

田忠魁 金相順 泉原省二『類義語使い分け辞典』(1998)研究社出版

中村明 芳賀綏 森田良行(編)『類語新辞典』(2005)第1版 三省堂

飛田良文 浅田秀子『現代形容詞用法辞典』(1991)東京新聞出版

松井栄一(編)『ちがいがわかる類語使い分け辞典』(2008)小学館

森田良行『基礎日本語辞典』(1989)角川書店

例文の出典

朝日新聞DB『聞蔵II ビジュアル』(1979年～2012/09/14)

Yahoo! 知恵袋 (検索日: 2012/08/29)

Google (<http://www.google.co.jp/>)